巻頭

亜米利加Java&.NET事情

攻める.NET、逃げのJava

吉田 弘一郎
YOSHIDA, Koichiro

Javaはハイテク景気の象徴

Javaと好景気

Y2K問題で、世界中が固唾を飲んで迎えた2000年は、ここ5年間のアメリカでの株価のちょうどピークでもありました。この時点を頂点として、ハイテク関連株のグラフは左右に裾野を広げる富士山のように見えます。右側の稜線のでこぼこが目立ちますけどね。この裾野の左端、つまり今から5年前を基準にすると、ナスダック平均株価のピークはおよそ2.2倍でしょうか。そして現在は5年前を少々割っています。Hewlett-Packardは面白いほど平均株価の動きに張り付いています。極端なのはもちろんYahoo!。ピークで30倍以上に跳ね上がっていますから、ナスダック平均株価が真ったいらに見えてしまいます。Amazonが20倍強、BEAが20倍弱……、というような話は、みなさんもよくご存知のとおり。ここで重要なのは、次の事実です。

日本の好景気は土地ブームの産物
米国の好景気はハイテクブームの産物

ソフトウェア関係者にとっては、この米国のハイテク景気を象徴するもののひとつが、インターネットブームに支えられたJavaでした。日本の好景気転落の主役ないしは犠牲者が銀行であったとすれば、アメリカでのハイテク景気崩壊のそれは、インターネット関連であり、ソフトウェアとして見ればJavaなのです。

「少々Javaができたのでシリコンバレーに転職したXXさんは、今はどこで何をしているのだろうね？」なんて会話は珍しくもありません。インターネットブームの幕開けは「少々HTMLができるだけで高給を取れた時代」であり、これについで「少々Javaができるだけで高給を取れた時代」になり、気が付くと「少々できた連中」は会社がつぶれなくてもお払い箱。さすがに質が問われる時代になりました。カリフォルニアで失業率ダントツトップは、言うまでもなくシリコンバレー。これは、とりもなおさず米国の失業率トップということになるのでしょう。

Javaの光と影

そんな状況に追い討ちをかけるように不穏な国際情勢ですから、今さらJavaなんて何の話題性もないのです。Javaのブームは去り、Javaの神話は消えました。しかし、興味深いことに、Java自身は確固たる基盤を築いていま

本稿で前提となるもの

初級　中級　上級

す。Javaはブームでもなく、神話でもなく、Unixサーバー側ソフトとして、押しも押されぬ地位を確保しています。ブームであり神話であったがゆえに強引に築くことができた地位です。「ブームであり神話であった部分」は、実はJavaを育てる「肥やし」であったのです。そして、Javaに対するイメージは、次のように変わりました。

成功するためのJavaから
失敗しないためのJavaへ

Javaは、投機の対象にはならないものの“臨界質量”を超える市場を獲得しています。ここで、Javaそのものを採点すると、それは大成功かつ大失敗と言わざるを得ません。次のような現状において①が成功、②が失敗です。

①JavaはUnixサーバー側で地位を確保
②クライアント側Javaは壊滅

いや、①においてすら、いまだPerlの跳梁を許すのみならず、PHPのような新顔の登場まで許しているのですから、まだまだJavaの力不足を感じる方も多いでしょう。それでもJavaの地位は確固たるもの、大いに評価されてしかるべきです。

Javaと一般ユーザー

JavaはUnixサーバー側プログラム職能集団という一種の「カルト」の言語であり文化であり“宗教”になりました。そして、このように専門化したがゆえに、「少々Javaを使える」程度では話になりません。要するに、一昔前のメインフレームの世界です。一般のユーザーの触れるものではないのです。このあたりが、今なおクライアント側で大活躍中のJavaScriptと対照的。Javaアプレットなんていうのも昔はあったのですけどね。

とにかく、次の認識は重要です。

Javaは一般向けではない

みなさんが、Unixサーバー屋でなければ、Javaする必要は皆無です。このあたりの状況は、現在の日本とはまったく異なるものと思われます。聞くところによると、Unixサーバー屋でない方々が、いまだJavaに興味を示しているそうですから。

Javaの肥やしで.NETは芽吹く

アメリカのハイテク景気を象徴するJavaと対照的なのは、その天敵となる.NETです。Microsoft社が報道関係者向けに.NET Frameworkのお披露目をしたのは、米国の大統領選挙の最中でした。ブッシュとゴアの大接戦の最中です。それは間違いなくハイテク景気の崩れゆくときでありました。要するに、「Microsoftの.NETにはブームも神話もなかった」のです。

インターネット景気がはじけてインターネットの投機性は激減しましたが、インターネットそのものの重要性が減じたわけではありません。完全にブームに乗り遅れたように見えます。実際、そうなのかもしれません。しかし、その逆の見方も可能です。いかにもMicrosoftらしく、「他人の肥やしがたっぷりきいた畑に自分の種をまきに来た」という見方です。これは、自己収縮を始めたJava業界に決定的な追い討ちをかける結果となりました。何せ「他人の肥やし」ですから強いです。この状況を一言でいうと次のとおり。

および腰のJava
強気の.NET

書店での書棚面積

このような状況は、書店での書棚面積に明瞭に反映されています。私が絶え間なく徘徊するバークレイ界隈のけっこう大きな書店数軒で見ると、Java関連の書棚面積は、次のようになっています。

①C#関連のものより少々大
②Visual Basic関連のものより少々大
③.NET関連全体の1/3から1/4

書棚面積ですべてを判断するわけにはゆきませんが、非常に良いバロメータになっているはずです。Javaがリリースされた1996年と比べると、プログラミング、データベース、ネットワーク……、と何種類もあるコンピュータ関連分野で、同時多発的に.NETの進行が始まったという事実が目立ちます。.NETの守備範囲がJavaに比べて圧倒的に広いからです。